

学校生活についてのアンケート調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小・中学校の児童生徒を対象に実施しています。

(2) 実施時期 2024年6月～7月

(3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生（単位：人）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,645	3,773	3,843	3,829	3,823	3,870	22,783	97.5%

中学生（単位：人）

1年	2年	3年	計	回答率
3,512	3,487	3,589	10,588	91.6%

※回答率は令和6年調査実施日現在の学校から報告があった児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者には、工夫して取り組めるよう配慮していますが、全児童生徒から回収ができていないため、回答率は100%になっていません。

(4) 調査・回収方法 無記名または記名で回答し、記入後その場で回収 Google フォームを活用した電子版での回答も実施

(5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

原則として、2020年より設問内容を同内容としています。設問3、9、11「嫌なこと」の選択肢として「はずかしいこと、危険なこと」を追加しています。また、設問7「相談した相手」の選択肢として「担任以外の先生」を追加しています。

設問1～5 「学校生活の中で嫌な思いをしている児童生徒の把握」

設問6・7 「相談状況の把握」

設問8・9 「自己の行動の見直し」

設問10・11 「周囲の児童生徒の意識」

設問12 「その他の不安や心配、困っていること」（自由記述）

2 調査結果の分析の観点

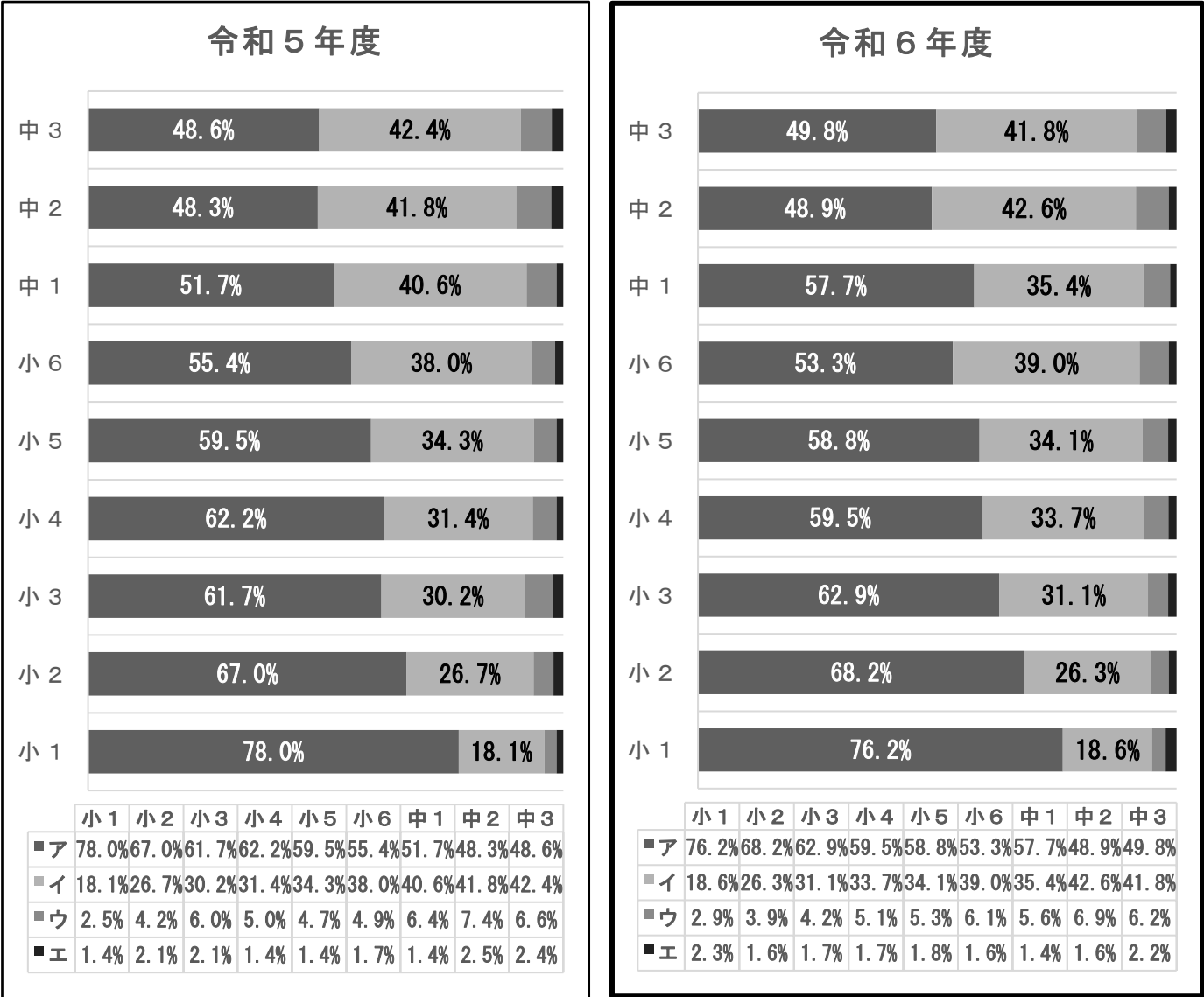
(1) 児童生徒の学年別での実態把握と、昨年度の状況との比較

(2) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合

3 調査結果の分析

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、集計値の合計は必ずしも100%とならない場合があります。

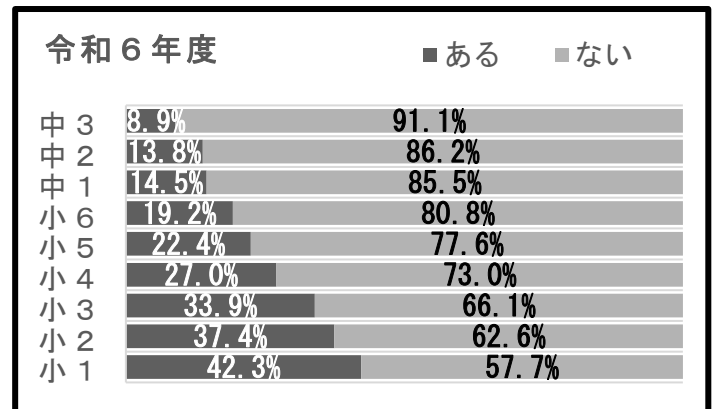
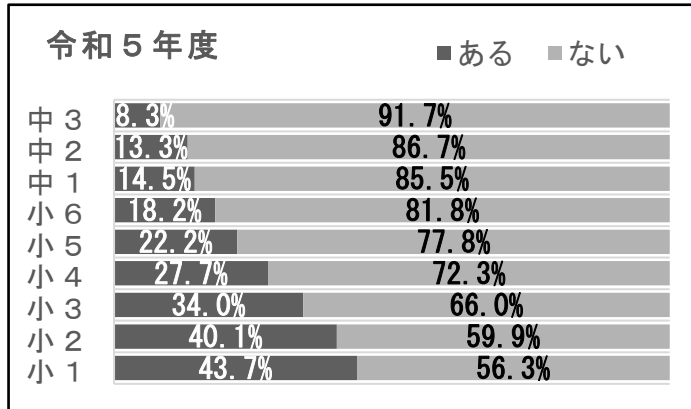
(1) 学校は楽しいですか。



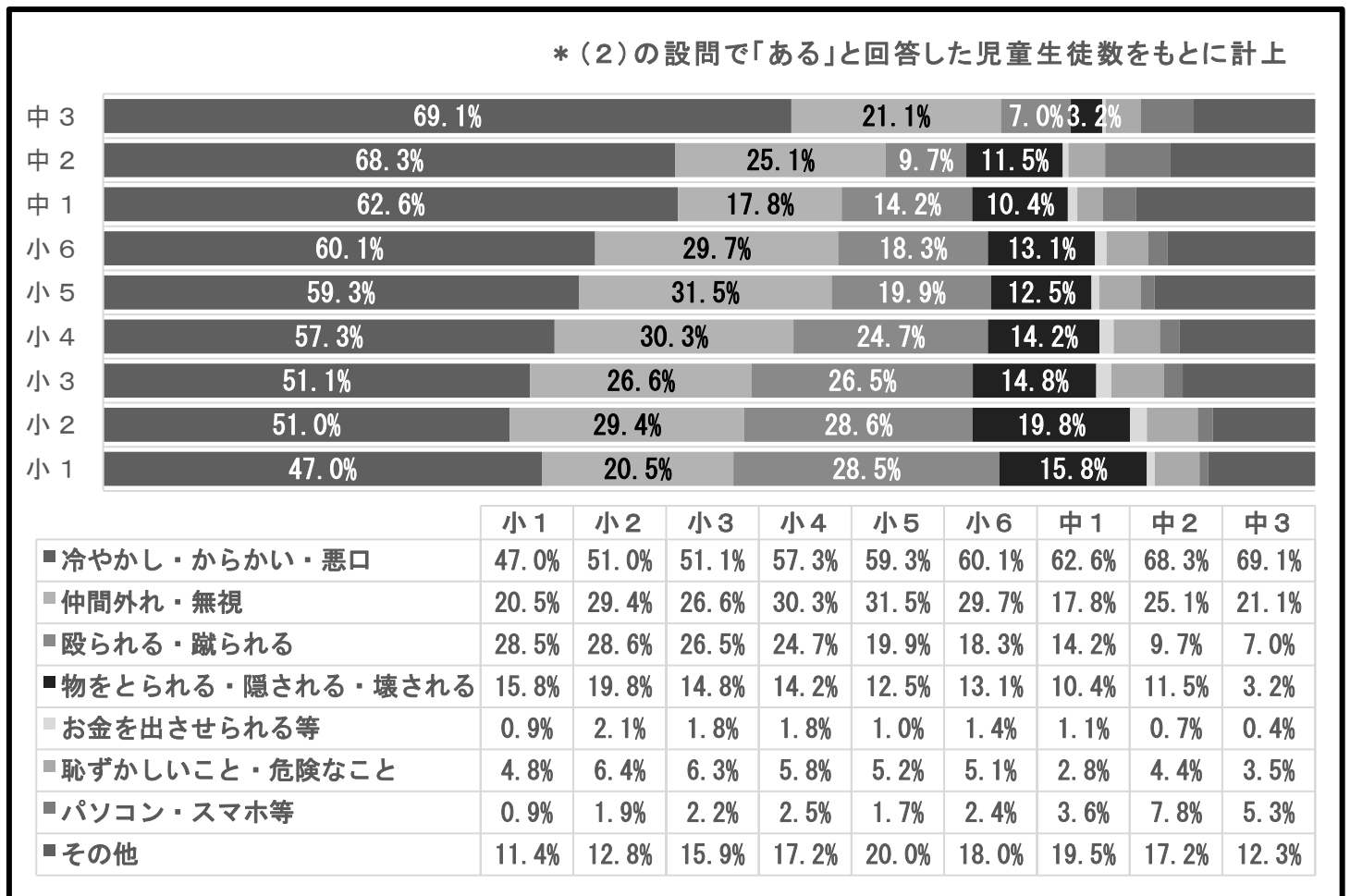
ア 楽しい イ まあまあ楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない

令和6年度において、学校が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒は、90%以上となっている。「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答した児童生徒の割合は、概ね学年が上がるにつれて高くなる傾向がある。また、小・中学校いずれにおいても、「楽しい」と回答した児童生徒の割合は、1年生が最も高くなっている。

(2) 学校生活の中で、周りの人からされたことで、嫌な気持ちになったことがありますか。



(3) (2)で「ある」と答えた人で、周りの人からされた嫌なことで、あてはまるものをすべて選びましょう。※複数回答可

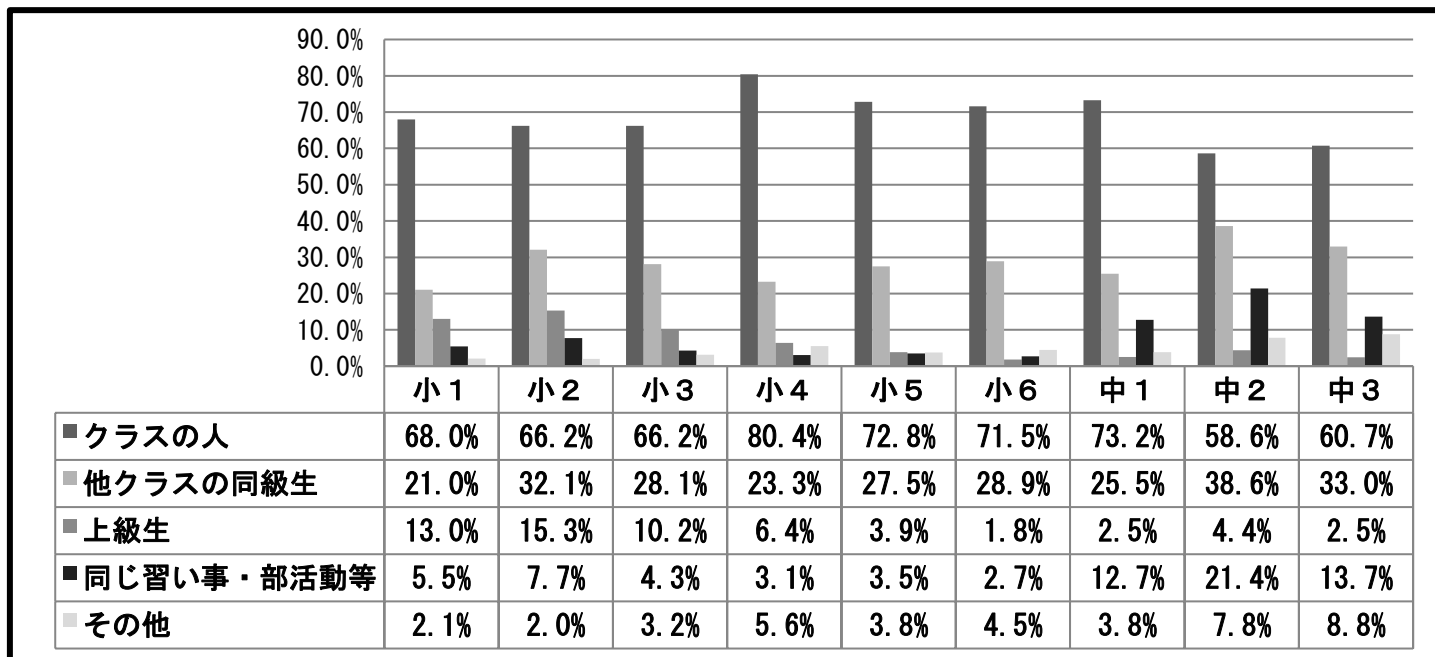


「嫌な気持ちになったことがありますか」という設問において、「ある」と回答した児童生徒の割合は、昨年度同様に、概ね学年が上がるにつれて低くなる傾向にある。

その種類では、どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が最も多くなっている。次いで、「仲間外れ、無視」、小学校では、「殴られる 蹴られる」も高い数値になっている。「パソコン・スマホ等」は、概ね学年が上がるにつれて高くなる傾向がある。

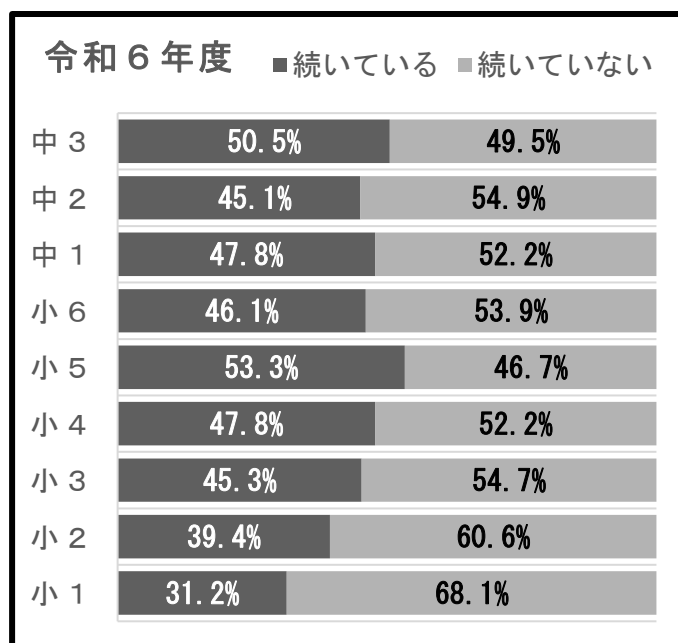
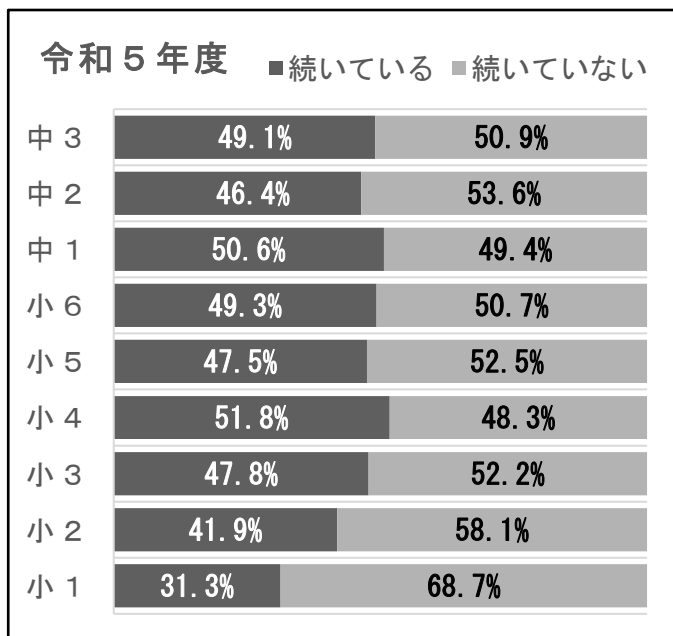
その他には、「嫌なあだ名で呼ばれた」「体を触られた」「授業中にうるさかった」等があげられた。

(4) 嫌なことを誰からされましたか。※複数回答可



(2) の設問で、「嫌な気持ちになったことがある」と回答した児童生徒のうち、「クラスの人」にされたと回答した割合が最も多く、続いて「他クラスの同級生」となっている。また、小1・小2・小3では、「上級生」と回答した割合が、他の学年に比べて高く、中学校では、「同じ習い事・同じ部活動の人」と回答した生徒の割合が高くなっている。

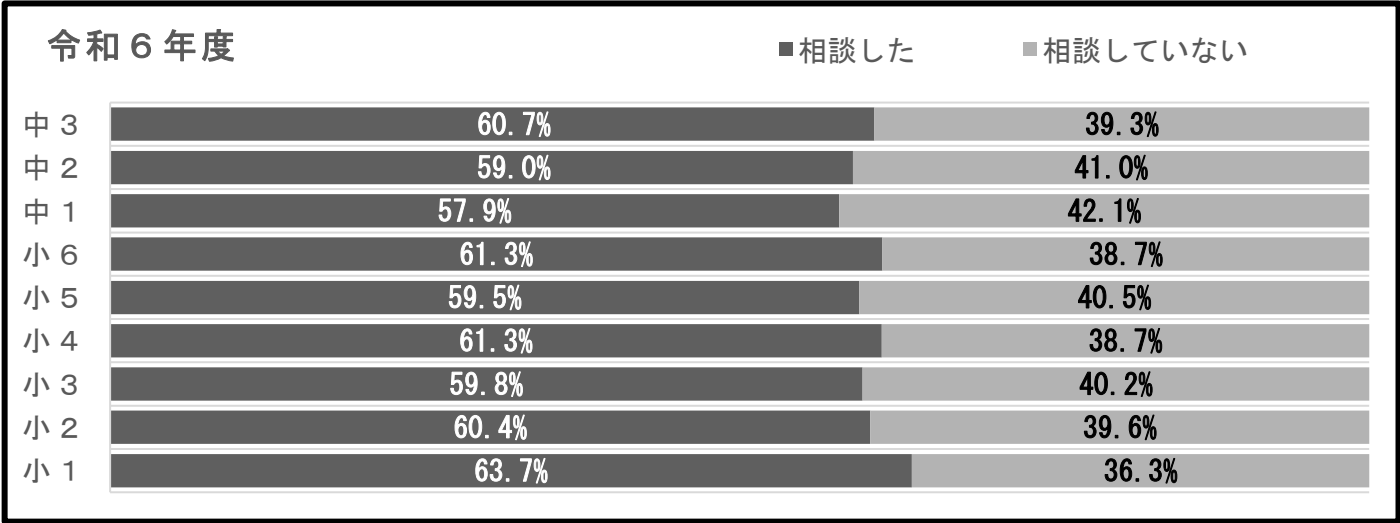
(5) 嫌なことは今も続いていますか。



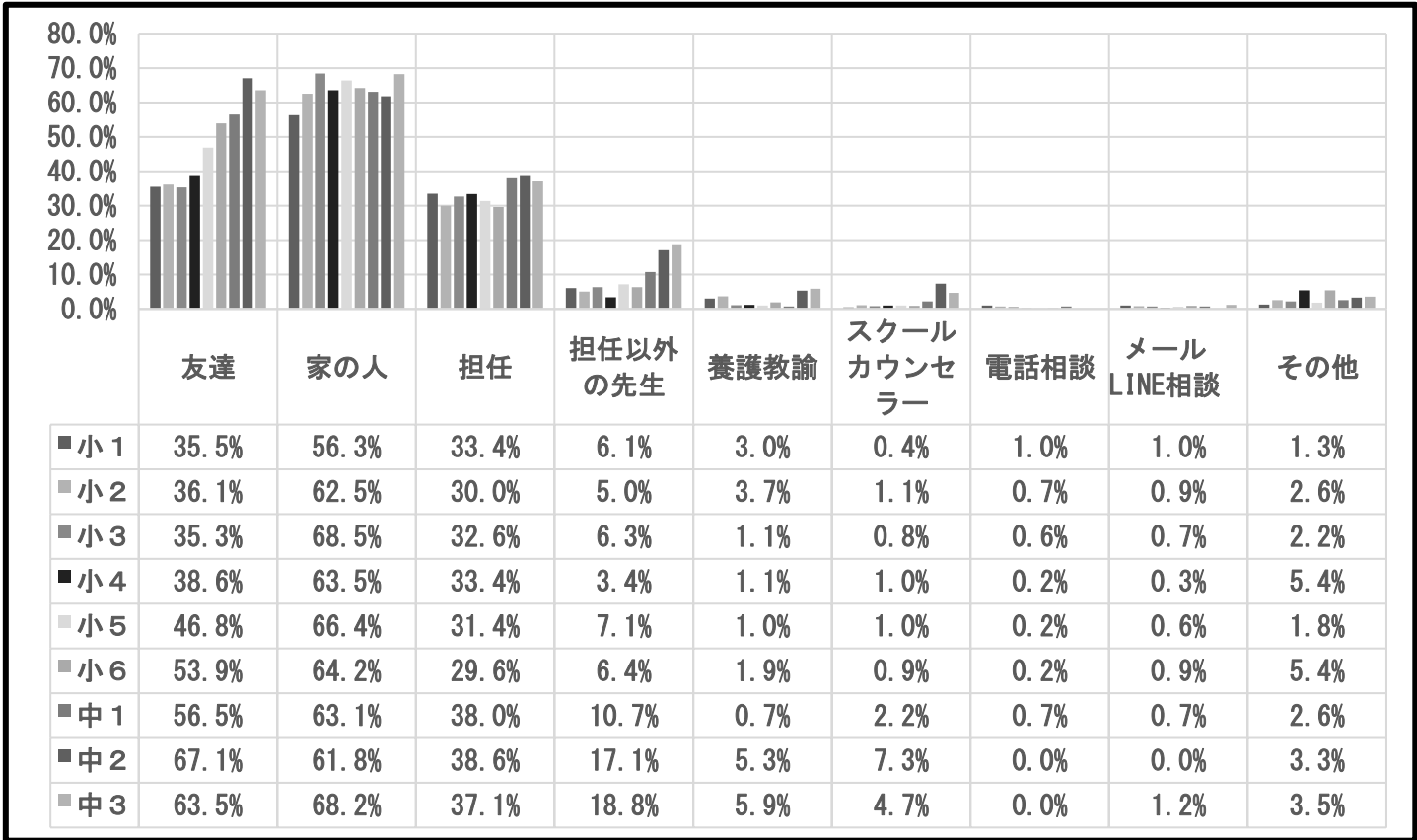
「続いている」と回答した割合が最も高かったのは小5で、「続いていない」と回答した割合が最も高かったのは小1であった。

特に小3以上は、半数近くの児童生徒が「続いている」と回答している。

(6) 嫌なことを誰かに相談したりしましたか。



(7) (6) で、「相談した」と答えた人に聞きます。相談した相手にあてはまるものをすべて選びましょう。※複数回答可



「相談をしていない」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに、40%程度となっている。

また、相談した相手として、小学校では「家の人」が最も多く、中学校では、「友達」「家の人」の割合が多く、中2・中3では、60%を超えている。

中学校では「担任以外の先生」に相談する生徒の割合が多くなっている。

なお、「その他」には、上級生、学童の先生、習い事の先生等が含まれている。

(8) あなたは、周りの人が嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことがありますか。

令和 5 年度		■ある	■ない
中 3	9.3%	90.7%	
中 2	9.1%	90.9%	
中 1	1.3%	88.7%	
小 6	14.0%	86.0%	
小 5	13.2%	86.8%	
小 4	16.5%	83.5%	
小 3	17.0%	83.0%	
小 2	21.0%	79.0%	
小 1	22.9%	77.1%	

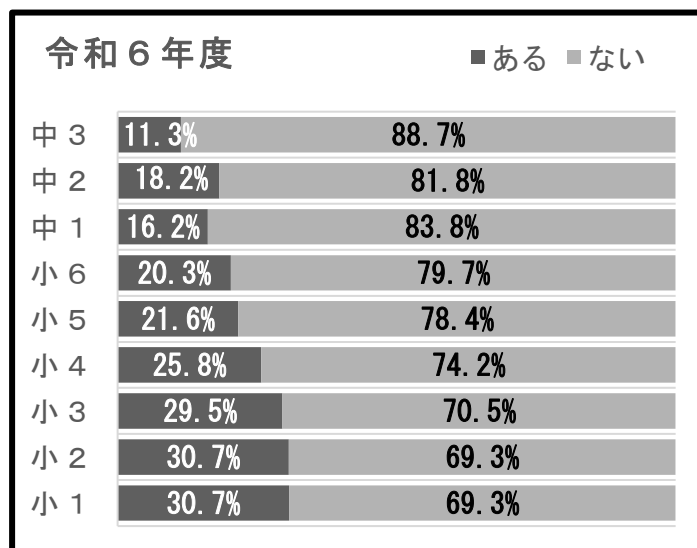
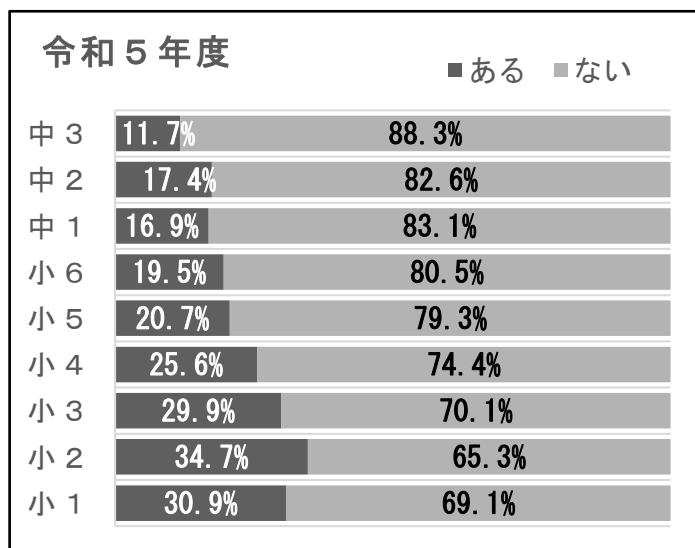
令和 6 年度		■ある	■ない
中 3	6.8%	93.2%	
中 2	11.1%	88.9%	
中 1	10.4%	89.6%	
小 6	21.6%	78.4%	
小 5	14.8%	85.2%	
小 4	15.4%	84.6%	
小 3	20.0%	80.0%	
小 2	20.7%	79.3%	
小 1	22.9%	77.1%	

(9) (8) で、「ある」と答えた人に聞きます。あなたが、周りの人に言ったり、したりしたことにあてはまるものをすべて選びましょう。あてはまるものがない場合は、「その他」を選んで、くわしく書いてください。※複数回答可

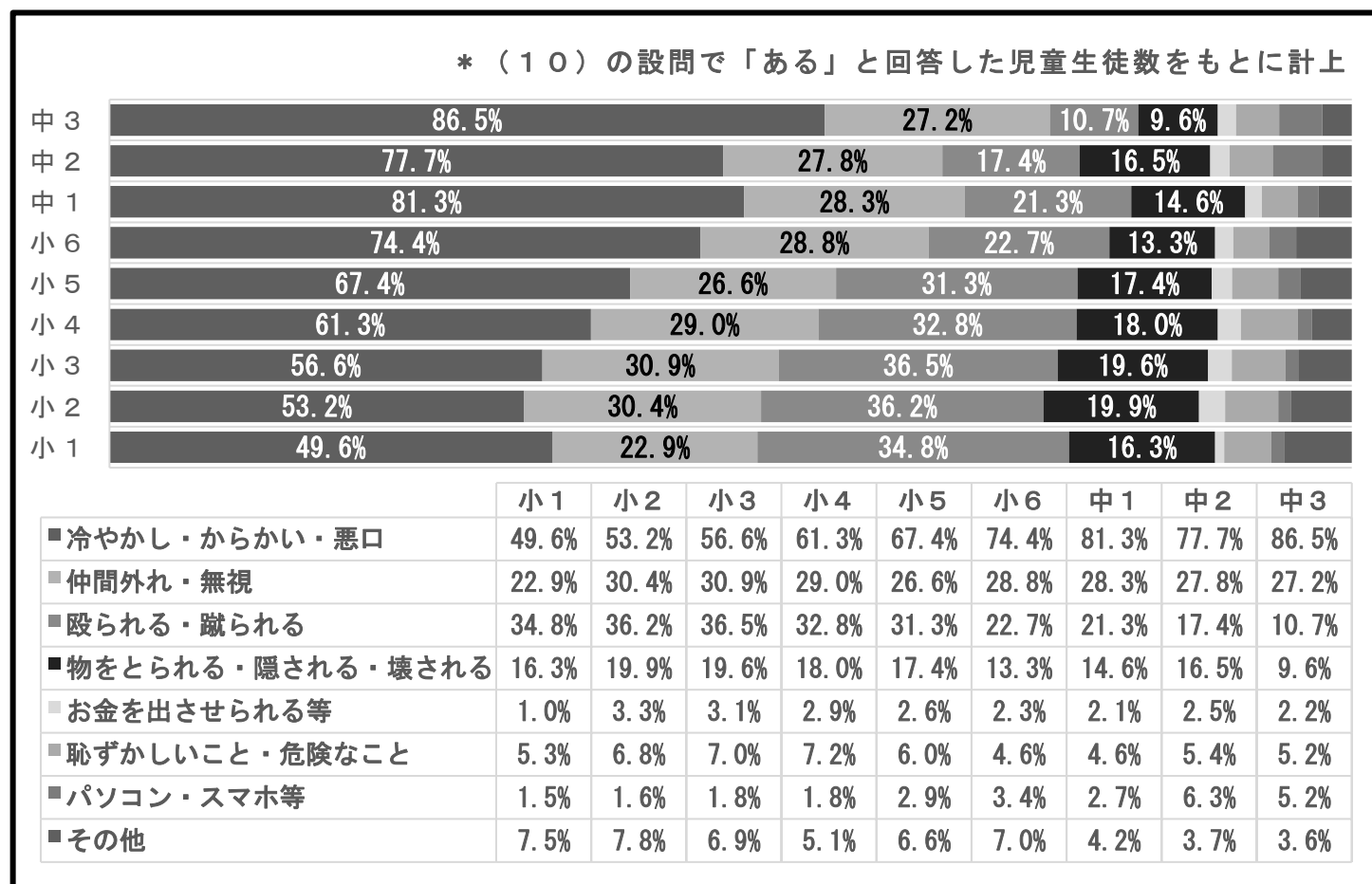
* (8) の設問で「ある」と回答した児童生徒数をもとに計上									
中 3	84.9%	7.3%	9.6%	5.0%					
中 2	80.9%	10.0%	16.0%	8.9%					
中 1	76.0%	8.2%	9.7%	6.7%					
小 6	50.8%	8.3%	9.2%	3.1%					
小 5	68.9%	12.4%	17.8%	8.9%					
小 4	66.0%	14.2%	19.6%	7.4%					
小 3	55.9%	20.1%	19.9%	9.6%					
小 2	57.5%	18.6%	17.2%	8.9%					
小 1	51.3%	16.4%	17.2%	8.7%					
■冷やかし・からかい・悪口	51.3%	57.5%	55.9%	66.0%	68.9%	50.8%	76.0%	80.9%	84.9%
■仲間外れ・無視	16.4%	18.6%	20.1%	14.2%	12.4%	8.3%	8.2%	10.0%	7.3%
■殴る・蹴る	17.2%	17.2%	19.9%	19.6%	17.8%	9.2%	9.7%	16.0%	9.6%
■物をとる・隠す・壊す	8.7%	8.9%	9.6%	7.4%	8.9%	3.1%	6.7%	8.9%	5.0%
■お金を出させる等	1.0%	0.7%	1.6%	0.9%	0.4%	0.8%	0.6%	0.9%	0.9%
■恥ずかしいこと・危険なこと	3.9%	2.9%	2.4%	1.4%	1.5%	0.6%	2.1%	2.0%	2.3%
■パソコン・スマホ等	0.9%	1.1%	0.7%	0.9%	1.5%	1.3%	1.8%	3.7%	4.6%
■その他	8.4%	8.8%	6.7%	8.2%	8.1%	6.0%	8.5%	7.1%	6.9%

嫌な気持ちになるようなことを言ったりしたりしたことが「ある」とする児童生徒の割合は、概ね学年が上がるにつれて低くなる傾向にある。昨年度と比較すると、小6の「言ったりしたりした」の割合は増加している。具体的な行為としては、どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が最も多く、次に「殴る、蹴る」となっている。

(10) 嫌なことをしている人を見たり聞いたりしたことがありますか。



(11) (10)で「ある」と答えた人に聞きます。見たり聞いたりしたことについてあてはまるものをすべて選びましょう。あてはまるものがない場合には、「その他」を選んで、くわしく書いてください。※複数回答可



学年が上がるにつれ、「見たり聞いたりした」の割合は概ね減少している。どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が多く、次に小学校では「殴られる、蹴られる」が多く、中学校では「仲間外れ、無視」が多い。「パソコン・スマホ等」での嫌がらせを見たり聞いたりした割合は、中2・中3で高くなっている。

(12) この他に、困っていることなど、先生に伝えたいことがあれば自由に書いてください。(授業のこと、習い事、家でのこと、家族のこと、など) (自由記述) ※一部抜粋

小学校	中学校
・家庭内で、暴言や暴力がある。 ・父と母がけんかしている。 ・習い事(学童)でいじわるされる。 ・悪いことをしていないのに、疑われて責められる。 ・授業が難しい。勉強ができるようになりたい。 ・授業中に他の人がうるさくて集中できない。 ・発表がすごく緊張したり不安になったりする。 ・「死ね、殺す」などの言葉が軽く使われ、学校全体であふれているように感じる。 ・緊張して相談することが難しい。 ・はっきり嫌と言えない。	・家族との関係が悪い。 ・授業が難しい。勉強のペースについていけない。 ・授業中にうるさい人がいて気になる。うるさくて集中ができない。 ・何を言っても平気みたいな空気が嫌い。 ・人の目を気にしすぎてしまい人が怖い。 ・コソコソ話をしている人を見ると、自分の悪口を言っているように感じて怖い。 ・部活の人間関係でとても困っている。 ・成績のことや進路のことが不安。 ・男女で分ける必要がないことで、男女で分けられることに違和感を抱いている。

小・中学校ともに、授業が難しい、騒がしい等の授業の様子や学習に関する記述が多くみられた。また、親やきょうだいからの暴言や暴力等、家庭内での悩みに関する記述も多くみられた。

小学校では、習い事や学童でのトラブルや友だちとの関わり方等の悩みがみられた。中学校では、部活動に対する不安や性に関する悩み等がみられた。

4 調査結果の考察

- (1) 設問2の「嫌な気持ちになったことがありますか」では、「ある」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて減っています。設問8の「人が嫌な気持ちになることを言ったりしましたか」でも、概ね同様な傾向がみられました。しかしながら、設問2と設問8を比べると小6から中3では、その差異は小さいものの、小1から小5では、大きな差異となっています。自分は嫌なことを言ったつもりがなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があります、感じ方がそれぞれ違うということに気付けるよう、小学校低学年のうちから人権意識を高める必要があります。
- (2) 設問2の「嫌な気持ちになった」という内容において、「パソコン、スマートフォンなどで嫌なことをされた(SNS、ゲーム、学校のパソコン等)」を選択した割合は、概ね学年が上がるにつれ増えています。小学校低学年でも、少ないものの嫌な思いをしている児童が見られました。子ども達の日常にスマートフォンの使用、SNS等でのやりとりが当たり前になっていることを踏まえ、周りから見えづらく、相談しにくいものとして、今後さらに増えることが懸念されます。これまで以上に、情報モラル教育や心の教育を充実させていく必要があります。
- (3) 設問4の「嫌なことを誰からされましたか」では、どの学年においても「クラスの人」という割合が半数以上を占めています。学校においては、クラスにおける人間関係づくりやいじめ防止の取り組みを系統立てて行うこと、さらに担任だけでなく学校全体で組織的に未然防止に努めることが大切です。また、中学校では、「同じ部活動の人」「同じ習い事の人」と回答した生徒が、小学校より高くなっています。これは、学校内において活動の場が広がることや塾等の場において嫌な気持ちになっていることが考えられます。いじめ防止対策は、学校内だけでなく、家庭や地域、関係機関等とも連携して取り組む必要があります。

- (4) 設問5の「嫌なことは今も続いていますか」において、小学校3年生以上では「続いている」と半数近くの児童生徒が回答しています。各学校は、「学校いじめ防止基本方針」に則り、対応するとともに、継続的な支援を行っていくことが重要です。
設問6において、「相談していない」という子も4割程度いることから定期的なアンケートの実施や面談等を行い、実態の把握や支援体制の見直し等に努める必要があります。また、「SOSの出し方教育」に、しっかり取り組むとともに、児童生徒が相談できる窓口について、子どもたちが利用しやすい形で周知していく必要があります。
- (5) 設問6において「相談した」と回答した6割の児童生徒が「相談した相手」として、小・中学校いずれも「家の人」が最も多くなっています。また、「担任」「担任以外の先生」「養護教諭」「スクールカウンセラー」の割合の合計を見ると、学校内にいる相談相手に相談した割合は、小学校ではおよそ4割、中学校では5割から6割いることが分かります。日頃から家庭との連携を心がけ、学校内外問わず幅広く児童生徒のSOSをキャッチする体制を構築することが大切です。児童生徒の相談を受けた際には、速やかに校内のいじめ防止対策委員会等、組織で情報を共有し、家庭と協力しながら丁寧に対応するとともに、状況によっては関係機関等とも連携していく必要があります。
- (6) 設問12の「学校内外のことで、困っていることなど」において、昨年に引き続き、家族の不仲や身内からの暴力等、家庭内のトラブルについての記述が一定数ありました。また、学校の授業の進度が早い、内容が難しい、教室が騒々しく集中できない等、授業における不安や不満もみられました。中学校では、部活動に対する不安や性に関する悩み等もみられました。児童生徒が一人で抱え込むことのないよう、相談しやすい環境づくりや相談先の周知、必要に応じて、関係機関や専門家につなげる等の相談支援体制の更なる構築に努め、安全安心な学校生活を送れるようにする必要があります。

5 今後の取組

子どもの心を育てることは、豊かな人間関係を築くうえで欠かせません。子どもたちが、互いの存在を認め合いながら、ともに支えあうためにも、一人ひとりをかけがいのない存在として尊重できる心を育むことが、いじめの未然防止につながります。

いじめの問題については、「藤沢市いじめ防止対策基本方針」及び各学校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校と教育委員会、関係機関が連携し、更なるいじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組んでまいります。また、学校や教育委員会の取組が、保護者や地域の方々に見え、連携できるような体制づくりを更に進めてまいります。

- (1) 学校は、児童支援担当教諭、生徒指導担当を中心に、「学校いじめ防止基本方針」に則って、学校内において情報を共有し、組織として支援指導していくことが重要になるため、スクールカウンセラーや関係機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行っていきます。
- (2) 学校は、「特別の教科 道徳」をはじめ、教育活動全体を通して、「自分を大切にするとともに、他の人を大切にする」という思いやりや寛容な心、他者の権利を認め尊重するという人権意識と、自分の行動を律する規範意識を育むことができるよう、組織的かつ計画的な指導に努めます。

- (3) 学校は、児童生徒が安心でき、楽しく充実感を得られる場になることが肝要です。そのためには、児童生徒が安心できる心の居場所となるよう教職員全体で「居場所づくり」を進めるとともに、児童生徒が主体的・協働的な活動を通して互いを認め合い、絆を紡ぎ合えるような視点を大切に魅力ある学校・学級づくりに努めます。
- (4) 教育委員会では、一般財団法人 LINE みらい財団と連携し、「GIGA ワークブックふじさわ」を作成、各学校に配付しました。学校と教育委員会が連携し、「GIGA ワークブックふじさわ」を通して、情報モラル教育の一層の推進を図ります。また、保護者向けに作成したケイタイ・スマホトラブルの事例や家庭でのルール等のページ活用についても啓発に努めます。
- (5) 教育委員会では、全児童生徒に相談機関紹介カードを配付し、相談先の周知に努めるとともに、学習用端末の L-Gate にグーグルアカウントを活用した「藤沢市子ども相談フォーム」の入り口を表示し、悩みを相談できない児童生徒が、対面での相談につながるよう、相談体制の充実を図っていきます。
- (6) 学校では、周囲に相談できず困っている児童生徒を早期に発見し、適切に対応していくために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等心理や福祉の専門職と連携して支援に努めます。
- (7) 教育委員会では、教職員のいじめに対する意識や対応力を高めるために、スクールロイヤーや、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させます。